



生活の党と山本太郎となかまたち

第28号 2015.10
HEADLINES

①野党連携に向けて 小沢一郎代表
山本太郎代表 国会スペシャル・レポート
②第189回国会を終えて
緊急出版!
「今だから小沢一郎と政治の話をしよう」

発行：生活の党と山本太郎となかまたち ■平成27年(2015年)10月10日発行 ■〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番6号 麹町森永ビル4F ■Tel.03-3234-3330
■Fax.03-3234-3332 ■E-mail: info@seikatsu1.jp ■ホームページhttp://www.seikatsu1.jp

野党連携に向けて 小沢一郎代表

「オリーブの木構想」による野党統一名簿で必ず次の選挙では国民の信頼を勝ち取る

安倍首相の本音は「日本を軍事大国にしたい」

第189回国会は9月25日で実質的な幕を閉じました。戦後最長の会期延長を図りましたが、安倍内閣の本質について議論されることもなく、安保関連法案は数の力で可決されました。安倍首相の本音は、経済大国となった日本は軍事大国としての要件も備えなくてはならない。そのためには海外に自由に派兵できるようにしたいということだと思います。

しかし、国際紛争を武力により解決できるのは唯一国連だけであるというのが私の考えです。どういう理由であれ、主権国が武力を持って国際紛争に介入するというのは20世紀までの人類の歴史を繰り返すだけです。日本は安保関連法により海外派兵するのではなく、二度の大戦を踏まえて理想の世界をつくらうとしてはじまった国連を中心とした国際平和にあらゆる手段で貢献すべきだと思います。

そして、安倍政権の暴走を止めるには、何としても政権交代を実現しなければなりません。ところが現在、自公に代わる野党の受け皿がないのもまた事実です。政権交代を現実のものとするためには、何としても野党が連携していくことが不可欠です。

政権交代の鍵は「オリーブの木構想」

そのための最善の策は、各党が解党して一つの党をつくることです。しかし、現実的になかなかそこまでいかない部分もあります。では次善の策をどうするか。それが今日の我々の最大の課題です。

私は次の参院選を野党は統一名簿による選挙、つ



まり「オリーブの木構想」で戦うべきだと思います。これは単なる選挙協力や選挙区調整と考え方が根本的に違います。「オリーブの木構想」は選挙時の届け出政党を既存の政党とは別に一つつくり、そこに各党の候補者が個人として参加するというものです。その際、候補者は所属政党を離党することも既存の政党を解党する必要はありません。

選挙区調整では自党の候補者が選挙区から出していないと、どうしても自党の比例区の応援に力が入ってしまい本当の野党結集にはなりません。しかし「オリーブの木構想」なら、選挙区も比例区も一緒に戦うわけですから、本当の力の結集になります。

来年の参院選をこの方法で戦えば一人区はほぼすべて勝利し、比例区と合わせてかなりの議席を取ることができはるはず。そうならば自民党も先の国会のような乱暴なことができなくなり。

野党の本気度が伝われば国民は必ず応援してくれる

私は野党はそのくらいの気概を持って参院選に臨み、次の総選挙で政権を取る道筋を国民に示すべきだと思います。その本気度が伝われば、国民は必ず応援してくれます。そのかわり、野党も公約を本気でやり遂げる強い思いと行動をはっきり示さなければいけません。野党が本気でやる心意気と勇気をもって政権交代に立ち向かう姿勢を示せば、必ず国民の信頼を得ることができ、道は拓かれていくと信じています。

(本稿は9月21日に行われた小沢塾での小沢一郎塾長の講演の部を再構成したものです。)

国会スペシャル・レポート

安保法制の廃止に向け、全国の同志の皆さんとともに全力を尽くします

山本太郎代表



山本太郎です。

本当に悔しい思いをしたこの夏…。憲法違反の戦争法案が、締めくくり総括質疑もされず、自公・安倍政権の暴力的な強行採決により成立してしまいました。国会会議録には「議場騒然・聴取不能」の文字。目の前で繰り広げられた議会制民主主義を完全に無視した暴挙は、絶対に忘れられません。国会議員として、立憲主義・民主主義を破壊する自公・安倍政権の暴走を、これ以上許すことはできない。その決意を新たにしました。

参議院本会議での採決に対して、少なくとも連休明けまで持ち越す

ことができないかと、フィリバスター(長時間演説)や牛歩戦術を考えました。私に討論等の機会がないことがわかったので、牛歩戦術について、何人かの先輩議員に相談しましたが、そういう意見はあるが実行されないだろうということでした。そこで、国会外や全国で反対の声を上げている人たちを裏切らないためにも、「ひとり牛歩」を決断しました。これは、議長の議事整理権に従って行ったもので、ルール違反ではありません。ただ、焼香等の表現については、議長から厳重注意を受けました。小沢代表からも「本気でやっているのはわかるけど、ふざけているととられてしまえば元も子もなくなる」と指摘を受けました。

いずれもきちんと受け止めて、来年7月の参議院選挙へ向けて、安保法制=戦争法制の廃止のために、法律に反対する野党と全国の同志の皆さんとともに、全力を尽くします。

今後も重要法案に全力で取り組む

谷亮子副代表



第189回通常国会の終盤では、安全保障関連法案に関する与野党の攻防が大きく取り上げられました。また、所属の法務委員会では、議員立法として参議院へ提出されて質疑を行った、「人種等を理由とする差別の撤廃のための施策の推進に関する法律案」および、衆議院を通過したものの、参議院で実質的審議を行えなかった、政府提出の「刑事訴訟法等の一部を改正する法律案」が継続審査となりました。そのほか、「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律案」や「民法の一部を改正する法律案」等、重要法案の審議が控えていることから、今後とも、全力で取り組んでまいります。

野党5党、安倍内閣不信任決議案を衆院議長に提出

9月18日、我が党をはじめ民主党、維新の党、共産党、社民党の5野党代表者は、衆議院に安倍内閣不信任決議案を共同提出しました。



いわゆる安保法案は違憲性が明白であること、審議の中で安倍首相および関係閣僚の答弁は二転三転し内閣が挙げてきた論拠が根底から崩れ去ったこと、圧倒的多数の国民が今国会での成立に反対しているなど、同法案は廃案にすべきことが明瞭になったにもかかわらず、安倍政権はこうした状況を無視して強行採決した。これは立憲主義を蹂躪し、国民主権を否定する決して許されない暴挙であり、安倍内閣にはもはや国民の負託に応える資格はまったくなく一刻も早く退陣すべきである、と決議案では提出理由を挙げています。

*不信任決議案全文は下記をご覧ください。
<http://www.seikatsu1.jp/activity/diet/20150918-2.html>

緊急出版!

今だから小沢一郎と政治の話をしてしよう



2013年春から2014年夏にかけて5回行われた「小沢一郎代表と堀茂樹教授のちょっと硬派な対談」がこのたび書籍になりました。本書は対談形式で構成されており、小沢代表の平易でわかりやすい言葉を通してその政治理念を的確に理解することができます。また、時に思想史を紐解き、哲学者の言葉を借りながら、小沢代表の言葉を裏付け、解説し、補足していく堀教授の受け答えが絶妙で、「小沢理念」の理解をさらに深めてくれます。安保関連法が成立し改めて小沢代表の安全保障に対する考え方が注目されています。本書は小沢代表の政治に対する基本的な考え方を正確に伝えているという点で他に類を見ない本といえます。

<内容>

- 第I章：政治とは何か
 - 第II章：憲法の話をしてしよう
 - 第III章：なぜ議会制民主主義か
 - 第IV章：世界の中の日本を考える
 - 第V章：国造りの構想
- 著者：堀茂樹
 - 出版社：祥伝社
 - 体裁：四六判ハードカバー
 - 本文288ページ
 - 定価：1,836円(本体1,700円)

野党連携を強化して違法な安保関連法を廃案に

主演了副代表

安倍政権が掲げる戦後レジームからの脱却とは、正に戦前への回帰に他なりません。安保関連法の基本になっている武力行使新三要件に関しても、政府はその基準を具体的に示すことができず、何も基準がないに等しいと言えます。安倍政権は違法性が強く指摘されている今回の法律を、日本国憲法を改正せずに成立させました。政府は合憲性の根拠として、砂川事件の最高裁判決と昭和47年政府見解を挙げていますが、砂川事件は日米安保条約に基づく米軍駐留に憲法違反かどうかを争点にただけであり、昭和47年政府見解も集団的自衛権を明確に否定しており、どちらも合憲性の根拠になりません。今後、安保関連法を廃案にするため野党は連携を強化していくべきだと思います。



安保関連法強行に重なる沖縄との既視感

玉城デニー幹事長

10本の法律を一括改正することによって日本の安全保障を強化するというのはあまりにも乱暴です。今なぜ、集団的自衛権の行使を急ぐ必要があるのか、その議論すら煮詰まっています。何としても政権を奪還し、この法律を大手術しなくてはならないと思っています。一方で、在日米軍専用施設面積の74%が集中している沖縄から見たとき、日米の安全保障条約は国と国との関係ではなく、沖縄と米国の関係を指すのかという憤りがあります。我々はウチナーンチュであると同時に日本国民なのであり、日本国憲法や日本の法律で守られる権利があります。政府が振興予算という札束で頬をひっぱたくようなやり方で県民や国民を分断させて強権的に行おうとする安全保障政策の危うさに、多くの国民が気づくことが大切です。



生活の党と山本太郎となかまたちは、機関紙以外にもメルマガをはじめfacebookや動画、Twitterなどのソーシャルメディアで積極的に情報を発信しています。

生活の党と山本太郎となかまたちホームページ <http://www.seikatsu1.jp>



生活の党と山本太郎となかまたち